

## 「横浜市長選」

2017年07月17日

横浜市の市長選挙が7月30日（日）に行われる。現職の林文子市長は自民党と公明党の推薦を受け、立候補すると言っている。それに対し、野党共闘の立候補者を擁立しようと模索し、伊藤ひろたか氏を立てることを決めた。13日、関内ホール大ホールで、伊藤候補を「わたしの市長」にしようと決起集会が行われた。伊藤氏の挨拶、期待する声、応援演説、そして、出陣の挨拶があり、1,200人が集まった関内大ホールは熱気にあふれた。

安倍政治に対する不信感は高まっている。東京都議会選挙では、自民党は歴史的な惨敗をした。国民は受け皿さえあれば、安倍政治を見限ると言うことであろう。

昨年7月の参議院選挙では、32の一人区選挙区の内、野党共闘した選挙区で11の議席を獲得し、野党共闘すれば、勝てるという感触を得た。沖縄ではオール沖縄で、反基地を主張する議員を当選させ続けてきた。そこでは「イデオロギーではなく、アイデンティティで」が合言葉であった。「安倍政治を許さない」と、野党共闘の動きが強まっている。沖縄での実績、そして、全国に7,500もできた「九条の会」の市民運動が野党共闘を押し進めている。政党や組織に動員された運動ではなく、自立した市民が参加する運動が最も確かな力になる。野党共闘を支える市民の働きに期待がかかっている時である。

横浜市長選に立候補した伊藤氏は、横浜市議3期10年務め、市政については詳しく、39歳の若さである。横浜にカジノを誘致しようとする動きがあるが、「カジノ反対」を第一の公約にあげている。カジノ法は自民党と大阪維新の会で、あつという間に可決された。林現市長は、菅義偉官房長官の傀儡だそうで、カジノ容認派である。カジノの建物、関連する工事にかかる1兆円が建設業界に入り、年間60億円の税金があると言われている。しかし、カジノは大金が動く博打で、人を幸せにすることはない。カジノを持つ町の不幸な実態が報告された。もう一つの公約は「中学校給食の実施」である。政令都市で、中学校の学校給食が行われていないのは横浜だけだそうである。林現市長は、家庭からの弁当と業者による「ハマ弁」で十分と言っている。伊藤氏は、共働きの家庭が多く、貧困家庭を支えるためにも、暖かい学校給食を実施すると公約している。もちろん、安倍政権の暴走に「NO」を突き付け、個人の尊厳と基本的人権の保障を進めると言っている。伊藤氏を初めて見て、話を聞いた。大変真面目そうな人である。

伊藤候補に期待する4人がスピーチをした。その中の青年が、ご飯に塩をかけて食べる若者たちの貧しい実態について話した。アベノミクスは破綻し、貧富の格差が拡大しているのが事実であろう。青年たちの政治参加が少ないと言われるが、貧しくて、参加できない実態があるということも事実である。青年に夢を持たせるのが政治ではないか。

ゲストスピーチを民進党の杉尾英哉参議院議員がした。杉尾氏は長野県の野党共闘で勝利して議員になった人で、体験を踏まえ、伊藤候補の当選を期待すると激励した。政党を代表して、民進党代表代行の江田憲司衆議院議員、共産党書記局長の小池晃参議院議員など、4人が応援演説をした。小池氏は、江田氏から嫌われているが、長野県の参議院選挙応援で一緒になった時以来、同じ応援演説に立てて嬉しいと笑わせた。共産党は、どの選挙区にも候補者を立ててきたが、現在は共闘に熱心で候補者を立てない方針に変えた。その柔軟さに、私は敬意を表している。最後の出陣の挨拶で、民進党の真山勇一参議院議員は、大きな組織票を持つ林氏とは「象と蟻」の争いだが、犬になり、今や象になっていると励ました。政治に責任を負おうとする市民の声が反映される選挙になる時、日本は民主主義を守ることができる。私はこのことに期待している。